

第25回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」報告書

4月17日(水)に18名の参加者(他教室参加者を含む)で第25回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」が開かれました。今回の題花はヨモギ(蓬)です。まず、よもぎ餅を思い浮かべましたがお話を伺うと知らないことが多くありました。よもぎは万能ハーブであり抗菌作用だけではなく、体に良い成分(カルシウム、鉄、カリウム、ビタミン類など)を極めて多く含み、薬としても万能でマラリアや癌の治療薬にもなっています。万葉の時代は端午の節句にショウブと共に髪に飾ったり軒先に挿したりしたそうです。



ヨモギの葉

葉の裏の毛から作られたモグサ



花



万葉集ではヨモギはたったの1首しか詠われておらず、その1首は大伴家持が長官として越中に赴任していた際の長歌です。律令制に則って1年に1回の都への報告に旅立った部下の久米朝臣廣縄(くめのあそんひろのり)の帰りを待ちわびる気持ちとやっと戻ってきた時(約8か月後)の喜びを歌ったものです。待つ間はショウブとヨモギを頭に挿して酒宴をしても心が晴れないと歌います。反歌2首も紹介頂きました。奈良から戻った廣縄の都ぶりを少々からかった1首と長きに渡る仕事の疲れをねぎらった1首です。家持の人間性が表れてこういう上司だからこそ部下の廣縄も尊敬したのだと納得できました。

ここで家持や廣縄が組み入れられていた律令制の四等官(しとうかん)制度についても教えていただきました。守(かみ)、介(すけ)、掾(じょう)、目(さかん)の4つの等級で官僚制度のもとになったそうです。そして家持の赴任中(746-751)は能登が越中の領土に含まれていたため、越中守の仕事として能登も巡行、その時の歌から旅程がわかることも驚きでしたが、能登が渤海(ほっかい)国との国交の拠点であったことにも驚きました。加えて源氏物語「蓬生(よもぎう)」や百人一首の藤原実方朝臣の清少納言への恋の歌に出てくるヨモギ(サシモグサ)の話も伺いました。最後にいつものように皆で唱和して調べを楽しみました。



先生の着物はよもぎ色、帯には鶴の模様です。帯留は百合の花、帯締めはヨモギの葉の表と裏の色の2色使いでした。すべて長歌の中で歌われた花や鳥にちなんだ凝ったものでした。

次回第26回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」のお知らせ

令和6年6月19日(水) 10:00 ~ 12:00 プララ杉田 505号室

参加費 1,500円 参加申し込みは長谷川嘉子にお願いいたします mondlicht.y.20@gmail.com

令和6年4月26日

文責: 三浦美智子・高木紀世子

5日前からのキャンセルは参加費をいただくのでよろしくお願いたします (資料は後日お渡しいたします)

◎6月19日に都合の悪い方は講師に直接ご連絡ください paksara3t@gmail.com